

TIRI News

3

2011 Vol.060

多摩テクノプラザ開設1周年記念号

- 全体紹介 多摩テクノプラザ -おかげさまで開設一周年-
- サイト紹介 EMCサイト -電波暗室とシールドルームで電子機器開発を支援-
- 繊維サイト -繊維製品のデザインから試作まで一貫したものづくり支援-
- グループ紹介 電子・機械グループ 電子回路設計・計測分野/機械技術分野
- 繊維・化学グループ 化学分野/繊維評価分野
- 設備紹介 多摩テクノプラザの環境試験装置 -冷熱衝撃試験装置-
- 企業訪問 多様化するファッションに対応したプリント
- Information 産業活性化フォーラム 開催のご案内
- 「創造と挑戦 ～次世代型ものづくりを展望する～」
- 試作市場2011 東京都立産業技術研究センター《特別セミナー》
- 平成23年度共同研究第1回テーマ募集
- JST東京都地域結集型研究開発プログラム
- 平成22年度 研究成果発表会 開催
- シリーズ新拠点⑫ 魅力と期待の集まる新本部整備
- 新本部における支援事業についてのご紹介-

本誌はインターネットでも閲覧できます。 <http://www.iri-tokyo.jp> をご覧ください。



地方独立行政法人

東京都立産業技術研究センター

多摩テクノプラザ —おかげさまで開設一周年—

多摩テクノプラザは、2月末で開設一周年を迎えました。おかげさまで、多くのお客様にご利用いただくことができました。厚く御礼申し上げます。これからも、職員一同、「お客様とともに歩む都産技研」「はばたけ！多摩のものづくり！」をモットーに、多摩の産業技術支援に邁進して参ります。よろしくお願い申し上げます。

たくさんのご利用ありがとうございます

平成22年2月22日のオープンから平成22年11月末までで1万件を超える依頼試験のご利用をいただきました。機器利用は8千件を超え、技術相談も9千件を超えました。セミナー・講習会は、お客様のご要望に応じて開催するオーダーメイド・セミナーを含めて40回以上開催し、ご好評をいただいております。見学は2千人以上のお客様にご覧いただきました。10月22、23日に開催した施設公開では、2日間で1,400人を超えるお客様にご来場いただきました。ご愛顧に厚く御礼申し上げます。

多摩テクノプラザ

多摩テクノプラザは、東京都が多摩地域の産業支援拠点として新たに設置した産業サポートスクエア・TAMA（昭島市東町3-6-1）内に都産技研が開設しました。

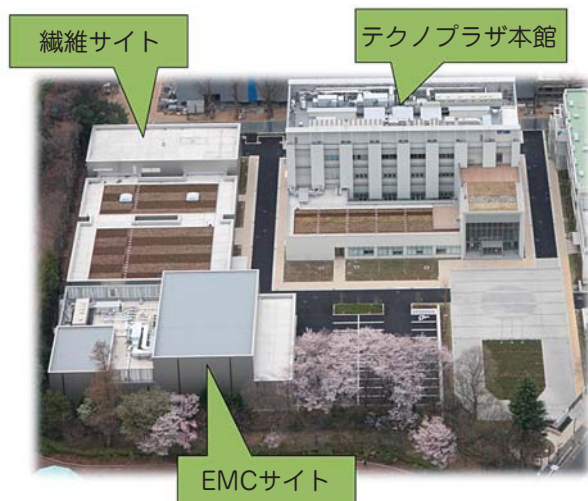


図1 多摩テクノプラザの全景

平成22年4月空撮

発展著しい多摩地域の中小企業の技術支援を強化するため、様々な設備を設置して技術支援を行っています。

多摩テクノプラザは、依頼試験や機器利用等に対応する基盤的な試験機器を整備するとともにパソコンルーム・会議室、製品開発支援ラボなどを設置したテクノプラザ本館、電磁環境に関する試験を行うEMCサイト、繊維分野のものづくり支援を行う繊維サイトの3つの建物から構成されています。



図2 多摩テクノプラザへの交通案内

JR西立川駅から徒歩約7分

所 長	職員 計 46名
総合支援課 10名	・テクノプラザの事業執行・管理 ・普及・広報・産業人材育成 ・サポートスクエア内外の機関との連携
電子・機械グループ 14名	・EMC試験やEMC対策支援 ・電子機器・電子回路に関する試験・技術支援 ・3D-CAD、3次元造形機を活用した試作支援 ・機械関係の試験・技術支援
繊維・化学グループ 21名	・化学分析、RoHS対応の試験 ・繊維製品評価、撚糸、織物製造、染色技術 ・繊維素材、高分子素材の応用技術

図3 多摩テクノプラザの組織構成

テクノプラザ本館

テクノプラザ本館は3階建て、1階、2階は主に依頼試験や機器利用のための測定室・実験室となっています。ものづくりに関する総合的な技術支援のため、高速造形機、振動試験機、冷熱衝撃試験機、塩水噴霧試験機、蛍光X線分析装置など約40台の試験機、測定機、分析器などを設置しています。3階には研究開発の場の提供を目的とした24時間利用可能な研究・実験スペースとして「製品開発支援ラボ」を5室設置しています。



図4 テクノプラザ本館の概要

主な試験機器類を以下にご紹介します。

- 環境試験関連機器
 - ・振動試験機
 - ・塩水噴霧試験機
 - ・大型恒温恒湿槽（内寸1 m × 1 m × 1 m）
 - ・冷熱衝撃試験機
 - ・耐候性試験機（キセノンランプ式他）
- 試験試作関連機器
 - ・高速造形機（ラピッドプロトタイピング）
 - ・3次元CAD
- 電気試験関連機器
 - ・マイクロフォーカスX線CT装置
 - ・サーモグラフィ
 - ・ナノサーチ顕微鏡
 - ・各種電源装置
- 精密測定試験機器
 - ・三次元測定機
 - ・微小硬さ試験機、超微小硬さ試験機
 - ・表面粗さ試験機
- 材料試験・分析機器
 - ・熱分析装置
 - ・蛍光X線分析装置
 - ・走査型電子顕微鏡
 - ・分光光度計



図5 テクノプラザ本館の外観

多摩テクノプラザは、多摩地域のものづくりの新たな拠点として、中小企業の皆様に支援して参ります。これまでも増して多くの皆様のご利用をお待ちしております。

総合支援課 <多摩テクノプラザ>

近藤 幹也 TEL 042-500-2360

E-mail: kondou.mikiya@iri-tokyo.jp

EMCサイト

－電波暗室とシールドルームで電子機器開発を支援－

EMCサイトは3つの電波暗室と2つのシールドルームで構成された施設です。10m法電波暗室はVCCI、FCCの登録サイトになっております。

EMCサイトの特徴

EMCサイトでは、製品から出るノイズの測定（エミッション）や外部からの電波妨害、雷サージ等による製品の誤作動検証（イミュニティ）など、EMCの規格試験を行っています。主な試験は、CISPR、IEC、VCCI等の規格に対応して実施しております。また、ノイズに関する相談も受け付けています。

主な活動

EMCサイトは平成22年2月のオープン以来延べ200社近くのお客様によって、EMC対策や最終試験のためにご利用いただきました。6月には、VCCI、FCCの登録サイトにもなり、正式にVCCIの試験を受け付けることができるようになりました。

VCCIでは今年度から通信ポートの測定、来年10月からGHz帯の測定が義務付けられます。当センターではこれらの測定も行うことができます。

また、車載・航空機器の試験も6月から受け付けており、CISPR25、ISO11452、JASO D001、RTCA/DO-160Fに対応した試験等を行っています。

セミナー

今年度は2日間コースのEMC試験実習のセミナーを4回行い、計24名の方が受講されました。セミナーでは、民生の試験規格、試験方法、EMC対策方法について講義と実習を行いました。実習では、実際に測定設備を使用し、EMC対策部品の効果について体験していただき、好評を得ました（図1）。

試験室の特徴

- 1) 10m法電波暗室（図2）
 - ・ 対向機器収納可能な地下ピット完備
 - ・ VCCI、FCCのサイト登録
 - ・ 40GHzまでの放射エミッション測定
 - ・ ダブルアンテナによる高速測定
- 2) 3m法電波暗室
 - ・ 18GHzまでの放射エミッション
 - ・ 6GHzまでの放射イミュニティ
- 3) 民生用シールドルーム
 - ・ IEC61000-4シリーズ
- 4) 車載機器用電波暗室
 - ・ CISPR25等 車載エミッション測定
 - ・ 車載用放射イミュニティ
- 5) 車載機器用シールドルーム
 - ・ BCI試験
 - ・ TEMセル試験
 - ・ 車載用サージ試験



図1 セミナーの様子

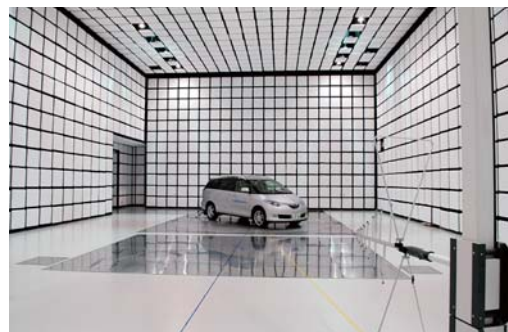


図2 10m法電波暗室

電子・機械グループ <多摩テクノプラザ>

原本 欽朗 TEL 042-500-1263

E-Mail: haramoto.yoshiaki@iri-tokyo.jp

繊維サイト

ー繊維製品のデザインから試作まで一貫したもののづくり支援ー

繊維サイトは、繊維製品の一貫したもののづくり機能を備えた施設です。製品の企画から試作までをお手伝いします。お気軽にご相談ください。



図1 繊維サイト正面

繊維サイトの特徴

繊維サイトは、デザインから仕上げまでの7つの専門ゾーンに分かれ、各ゾーンには開発や試験に必要な設備を設置しています。また、様々な実験器具を備えた実習室も用意しています。これらを活用し、技術相談や依頼試験、機器利用、実習を交えた技術セミナーの開催など、企業の皆様からのご要望にお応えできるよう、幅広い事業に取り組んでいます。

各専門ゾーンの紹介

①デザインルーム

テキスタイル（織物などの布地）企画デザインをサポートします。コンピュータシステムを用いたデザイン作成では、糸形状などを精巧に表現した織物デザインをはじめ、リアルで高度な表現が可能です（図2）。



図2 テキスタイルデザインの作成
デザインルーム

②撚糸ゾーン

複合撚糸機やカバリング撚糸機、組紐機、繰返し機など、撚糸や糸の準備工程に関連した機器を設置しています。織物やニットなどに用いる様々な太さや形態の糸の作製に対応します（図3）。

③織物ゾーン

高速ジャカード織機、タオル織機、金網織機、整経機などの織物製造関連機器を用い、アパレル製品から産業資材にいたるまでの、様々な目的に合わせた織物の試作や製織準備が行えます。

④不織布ゾーン

ニードルパンチ機、開織機、ローラーカード機を設置しています。産業資材をはじめ様々な用途向けの不織布の試作を行います。

⑤ニットゾーン

コンピュータよこ編機、丸編機を設置しています。よこ編機はホールガーメント機で、無縫製ニット製品の試作などが可能です。

⑥染色ゾーン

噴射式かせ糸染色機、ウインス染色機、染色槽、蒸し箱などの機器を用い、糸や布の浸染とその準備が行えます。サンプル染めや少量の染色などにご利用いただけます（図4）。

⑦仕上げゾーン

布用インクジェットプリンタ、な染台、な染試験機、ホフマンプレス機などを設置しています。各種捺染から熱プレスなどの仕上げ作業に対応します。インクジェットプリンタは大型のフラットベッドタイプと、小型の濃色生地対応タイプの2種類を用意しています。

繊維・化学グループ <多摩テクノプラザ>

藤田 茂 TEL 042-500-1240(直通)

E-mail: fujita.shigeru@iri-tokyo.jp



図3 撚糸ゾーン
撚糸機を用いて様々な糸の作製



図4 染色ゾーン
糸や布などを染める浸染機器

電子・機械グループ 電子回路設計・計測分野

電子回路設計・計測分野では、電子部品のインピーダンス特性や樹脂の絶縁抵抗、メッキの導電率など、各種電気的特性に関する計測試験を実施しています。

また、マイクロフォーカスX線CT装置を用いて電子部品などの内部状態をCTスキャン画像（図1）で確認する非破壊検査も行えます。これまでに、実装基板のハンダの濡れ性やボイド、パターンのクラック、ICのボンディング不具合の確認などの実績があります。

他にも回路設計のフロントローディング支援・オーダーメイド開発支援として、電子回路設計／基板設計、伝送路解析や電磁界解析ツールを用いたCAE解析・SI/EMC対策などについて、設計の初期段階からの支援を行っています（図2）。

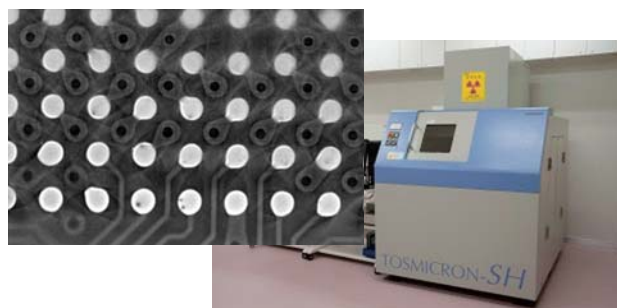


図1 マイクロフォーカスX線CT装置とCTスキャン画像

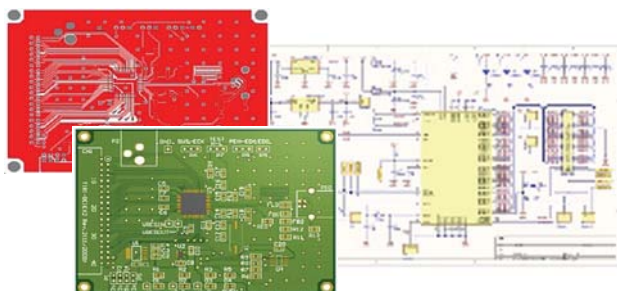


図2 電子回路／基板設計・伝送路解析

電子・機械グループ 機械技術分野

製品の安全性・信頼性の検証のためには、強度試験や耐久試験等様々な試験が行われます。機械技術分野では、動的な強度試験として、図3に示す繰り返し負荷に対する耐久性を評価する疲労試験、輸送や使用中の振動に対する耐久性を評価する振動試験といった依頼試験を実施しています。

疲労試験では、金属・プラスチックなどの素材や製品に対して引張・圧縮・曲げの負荷を繰り返し作用させたときの疲労寿命や変形（伸び）等の特性を調べます。これまでに、自動車部品や医療器具等に対する試験を実施しています。振動試験では、加振テーブルに製品を固定し、JIS等に規定されている振動や衝撃を与えた後、製品の故障や破損を確認します。これまでに、鉄道車両用品や自動車部品、包装貨物に対する試験を実施しています。

他にも、製品の寸法や形状あるいは粗さ等の精密測定、三次元CADの導入支援のためのオーダーメイド・セミナー、製品開発のための三次元造形装置による試作品作製にも対応して

います。また、設計上流からの支援が可能となるCAE解析にも力をいれています。



図3 疲労試験(左)と振動試験(右)の様子

電子・機械グループ <多摩テクノプラザ>

佐野 宏靖／西川 康博 TEL 042-500-1263

E-Mail: sano.hiroyasu@iri-tokyo.jp

E-Mail: nishikawa.yasuhiro@iri-tokyo.jp

繊維・化学グループ 化学分野

化学分野では、工業製品や材料の物性評価、環境規制対応、リサイクル・資源有効利用などに関する相談、試験、機器利用などの技術支援で皆様のご利用をお待ちしています。

●技術支援内容

- ・技術相談（化学分析、物性評価、環境規制（RoHS指令）など）
- ・依頼試験、機器利用
- 促進試験（耐候性試験機、塩水噴霧試験機、

恒温恒湿試験など）

化学分析（蛍光X線分析装置、走査電子顕微鏡（RoHS分析、異物分析など））

- ・研究・開発（オーダーメイド開発支援、共同研究）
- ・実地技術支援（現場（工場等）での職員や技術アドバイザーによる課題への対応）
- ・その他（技術セミナー・講習会、技術研究会、産学公連携事業など）



耐候性試験機



塩水噴霧試験機



蛍光X線分析装置



走査電子顕微鏡

図1 主な試験機、分析装置

繊維・化学グループ <多摩テクノプラザ>

小山 秀美 TEL 042-500-1292 E-Mail:koyama.hidemi@iri-tokyo.jp

繊維・化学グループ 繊維評価分野

繊維製品は消費者に渡った後に、着用・洗濯が繰り返されます。繊維製品がこのような過酷な条件下でも、色の変化や外観の変化を起こすことなく消費に耐えうる性能を有しているかどうかを前もって調べておくことが重要となります。

このために、光、洗濯、汗、摩擦等によって色が変わってしまったり、落ちた色が他の衣類を汚したりしないか調べるために、染色堅牢度試験、あるいは、引張り、摩耗、ピリング、洗濯

による寸法変化などの物理性能試験を行います。

図2に示す繊維計測機器の一部は、機器利用としてお客様ご自身でご利用いただけるものもあります。これらの事前に行う試験に着用等で特性が損なわれたものについては、その原因を調べるクレーム解析試験や、事故の再発を防ぐためのご相談にも応じています。また、繊維製品だけでなく、フィルムや産業用資材に関しても試験が可能な場合がありますのでお気軽にご相談下さい。



耐水度試験機



強伸度試験機



洗濯試験機



顕微鏡システム

図2 主な試験機など

繊維・化学グループ <多摩テクノプラザ>

池田 善光 TEL 042-500-1291 E-Mail:ikedayoshimitsu@iri-tokyo.jp

多摩テクノプラザの環境試験装置

— 冷熱衝撃試験装置 —

多摩テクノプラザでは、さまざまな環境試験装置を設置しております。ここでは、製品や部品等に急激な温度変化を与えたときの信頼性や不具合、劣化状態を確認する冷熱衝撃試験装置についてご紹介します。

冷熱衝撃試験

製品や部品等の故障や劣化などを調べるための試験には温度サイクル試験と冷熱衝撃試験があります。これらの試験は共に季節の寒暖差の激しい寒冷地での製品の利用を想定しています。比較的緩やかに温度を変化させる温度サイクル試験に対し、冷熱衝撃試験は急激に温度を変化させ、より過酷な温度変化に起因する製品の故障や部品の劣化などを調べるために要求される試験です。

装置の特徴

図1に示す本試験装置は、テストエリア（図2）の上部に高温槽、下部に低温槽を配置し、シャッターの開閉により、テストエリアにセットした試験品に急激な温度変化である冷熱衝撃を与える方式となっています。また、運転プログラムを組むことで、任意の温度パターンやJIS C 0025等に対応した試験を実施できます。試験条件の設定は、画面表示に従って画面をタッチすることで操作設定が簡単に行えるカラー液晶のタッチパネル（図3）方式を採用しています。初めて利用する方でも比較的簡単に操作できます。

主な仕様

- 1) 装置型式：エスベック製TSA-101S
- 2) 温度範囲：高温側 60～200℃
低温側 —70～0℃
- 3) テストエリア寸法：
650(W)×460(H)×370(D)mm
- 4) 試料カゴ耐荷重：5kg
- 5) テストエリア耐荷重：50kg



図1 冷熱衝撃試験装置



図2 テストエリア



図3 設定画面

ご利用にあたって

この装置は機器利用としてお客様ご自身で操作してご利用いただけます。利用方法、そのほか、ご不明な点はお気軽にご相談ください。

本装置は財団法人JKAの平成21年度KEIRINによる補助事業により導入しました。

繊維・化学グループ <多摩テクノプラザ>
竹村 昌太 TEL 042-500-1294
E-mail: takemura.shohta@iri-tokyo.jp

多様化するファッションに対応したプリント ー50年の経験と技術を活かしてー

ことぶき繊維加工株式会社

東京都八王子市元本郷町2-1-16

TEL : 042-622-2432

URL : <http://www.kotobuki-seni.co.jp/>

近年、ファッションの多様化が進み様々な繊維製品が出回っています。それに伴い染色加工法も多様化しています。多様化する染色加工法に対応するため技術向上に努めているスクリーンプリント（な染）工場、ことぶき繊維加工㈱をご紹介します。

スクリーンプリントとは型を用いて生地模様を表す染色方法であり、手法として人間の手により加工するハンドプリントと機械により加工するオートプリントに区別されます。同社では多様なプリントに対応するため、ほとんどのものをハンドプリントで行っております。アパレルメーカーの婦人・紳士ニット製品を主に扱っており、加工対象とする素材は天然繊維から化学繊維と幅広く対応しています。

長年の経験と技術に基づいた生産体制

プリントはな染のり⁽¹⁾の配合から始まり、生地への印なつ⁽²⁾、蒸熱⁽³⁾、洗浄と作業工程があり、全ての工程が関わりあって製品の出来が決まります。製品を良質に染めあげるには各工程において、他工程への影響を考慮する必要があります。一例をあげると、配合したな染のりの粘度により生地への適切な印なつ量を検討していく作業が挙げられます。同社では時間がかかる



図1 工場の作業風景

あらかじめ黒く染められた生地を台に貼り、白抜き模様を表すためのな染のりを印なつしている

調整作業を、長年にわたり蓄積されたデータ、職人さんの熟練した技術により素早く判断できるため、短納期で良質な製品の加工を実現しています。

- (1)染料、顔料その他必要な薬剤が配合されているのり
- (2)生地へ部分的にな染のりを置き、模様を表現していく作業
- (3)な染のり中の色材を繊維に固着、あるいは薬剤を反応させるため水蒸気を用いて加熱する工程

新技術への対応を目指して

「昔は流行物を大量に染めていたが、今は様々な商品を小ロットで染めることが大半。プリントであれば素材や加工法を選ばずになんでもできる技術があります。様々な繊維素材に対応するための色材や、特殊なプリントも可能な薬品をそろえています。」と長濱社長は語られ、常に新しい技術にチャレンジしながら多様化するファッションに対応したスクリーンプリントの商品づくりをしていくとのこと。都産技研とのつながりも深く、製品開発に向けた特殊な染色法についての技術相談や、依頼試験等をご利用いただいています。



図2 な染のりの配合場

必要なものをすぐ用意できるよう管理されている

現在では、従来の東京近郊だけでなく東北や北陸からの加工依頼もあり、毎月新規の顧客も増えているそうです。顧客のニーズに応える姿勢と、確かな技術力が新規の顧客を得るうえで大切なことだと感じました。

繊維・化学グループ <多摩テクノプラザ>

武田 浩司 TEL 042-500-1246

E-mail: takeda.koji@iri-tokyo.jp

産業活性化フォーラム 開催のご案内

「創造と挑戦 ～次世代型ものづくりを展望する～」

都産技研は、現在の西が丘本部と駒沢支所を統合し、中小企業の高付加価値ものづくりを支える新しい拠点として、平成23年5月、新本部（江東区青海）を開設いたします。

**定員200名
聴講無料**

開設を記念してイベントを開催します。展示のほか、次世代型ものづくりをテーマにシンポジウムも行います。皆さまのご参加をお待ちしております。

日時：2011年3月9日(水)

展示 ロビーギャラリー 10:00～17:00

シンポジウム ホールD5 13:30～16:20

会場：東京国際フォーラム

シンポジウムプログラム

【基調講演】「課題先進国日本が目指すべき社会」

(株)三菱総合研究所 理事長 小宮山 宏 氏

【フロントランナー企業によるプレゼンテーション】

(株)新興セルピック、(株)上島熱処理工業所、(株)ユーグレナ

◇聴講をご希望の方は公式ホームページ、またはFAXにてお申し込みください

URL <http://www.nikkan.co.jp/html/tiri/>

Fax 03-5644-7397

■お問合せ先：「産業活性化フォーラム」運営事務局

TEL：03-5644-7338 E-mail：sangiken@media.nikkan.co.jp

試作市場2011 東京都立産業技術研究センター《特別セミナー》

都産技研は、展示会「試作市場2011」において、新本部で拡充する支援サービスメニューとラピッドプロトタイピング（RP）を活用した試作事例について紹介する《特別セミナー》を開催します。

**聴講
無料**

日時：2011年3月10日(木) 13:00～14:20

場所：大田区産業プラザPIO 大展示ホール内ワークショップ会場

プログラム

「ものづくり産業の総合的な支援拠点の開設」

経営企画室 上席研究員 片桐 正博

当センターは本年5月、臨海副都心地区に新たな支援拠点を開設します。新しい拠点での主な取り組み内容や、当センターを利用した中小企業が製品化や事業化に結びついた事例を紹介します。

「ラピッドプロトタイピングの有効活用」

デザイングループ 副主任研究員 横山 幸雄

昨今、目覚ましい発達を遂げた積層造形法を応用したラピッドプロトタイピング（RP）は、試作品作製の有効な手段として、その活用のシーンを広げつつあります。様々な種類のPR装置の活用事例を紹介します。

詳細HP <http://www.nikkan-event.jp/shisaku>

平成23年度共同研究第1回テーマ募集

－製品化・実用化を目指す共同研究－

都産技研では企業や大学等から共同研究のテーマを募集し、相互に経費と課題を分担して新製品や新技術の開発を目的とした研究を実施しています。募集は年2回実施し、今回は第1回の募集です。応募する際には、事前に都産技研の担当研究員とご相談願います。

研究成果からは数多くの新製品や特許が生まれています。

下記は平成21年度の成果の一例です。



ベスト及びネクタイ

(東京スカイツリーライセンス事務局認定)

東京スカイツリー開業にあわせて墨田区発の新ブランド「ピッキーズドゥ」を立ち上げました。

共同研究企業：株式会社ミハイル

研究タイトル：「東京スカイツリー観光グッズの製品開発」

商標登録：第5358694号



【ピッキーズドゥ】

- 受付期間 平成23年4月4日～平成23年4月15日
- 研究期間 平成23年6月1日～平成24年3月31日（予定）
- 採択テーマ数 20件程度
- 選考方法 書類及び面接審査により実施
- ★ 西が丘本部の移転が予定されていますので、詳細はホームページの最新版でご確認ください。 <http://www.iri-tokyo.jp>

【お問合せ先】 開発本部 開発企画室 TEL：03-3909-2196（平成23年3月31日まで）

JST東京都地域結集型研究開発プログラム －都市の安全・安心を支える環境浄化技術開発－ 平成22年度 研究成果発表会 開催

本プログラムは、東京都が独立行政法人科学技術振興機構（JST）からの委託を受けて推進する共同研究開発プログラムで、大気汚染の原因となるトルエン、キシレン等の揮発性有機化合物（VOC）の浄化削減技術を開発します。主に塗装工場や印刷工場を対象として、VOC処理装置やセンサ、評価技術の確立等の研究開発・製品化を進めています。

今回、平成22年度の成果について発表しますので、是非ご参加ください。

日 時：平成23年3月10日（木） 14:30～17:30

会 場：東京都庁 議会棟1階 都民ホール 【東京都新宿区西新宿2-8-1】

参 加 費：無料（要申込：下段のお申込み先までご連絡ください）

プログラム：

- | | | | |
|---------------------|-------------------------|-------|-------|
| 1. VOCバイオセンサの開発 | 東京医科歯科大学大学院 生体材料工学研究所 | 教 授 | 三林 浩二 |
| 2. VOC分解用酸化触媒の開発 | (地独)東京都立産業技術研究センター | 研究員 | 染川 正一 |
| 3. 塗装乾燥炉用VOC処理装置の開発 | (地独)東京都立産業技術研究センター | 研究員 | 小島 正行 |
| 4. VOC評価方法書の作成と利用 | 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 | 教 授 | 柳沢 幸雄 |
| 5. VOCによるPM2.5の生成解析 | (財)東京都環境整備公社 東京都環境科学研究所 | 主任研究員 | 横田 久司 |

<お申込み、お問合せ先>

地域結集事業推進部 <西が丘本部> 庶務経理チーム

TEL：03-3909-2151 FAX：03-3909-8176 E-Mail：create@iri-tokyo.jp

※メールでお申込の場合は件名に「プログラム参加希望」と記載してください。

魅力と期待の集まる新本部整備 — 新本部における支援事業についてのご紹介 —

4月号から全12回のシリーズで、平成23年度開設予定の新本部整備進捗状況及び事業の紹介をしてきました。今回は新本部の工事進捗状況の他に、これまでに掲載した主な支援事業について改めてご紹介します。

新本部の工事進捗状況

平成20年12月に着工した建築工事は、図1の写真のようにほぼ完成し、その全貌が現れてきました。平成22年3月竣工、5月の開所に向け、着々と準備が進められています。



図1 新本部建設現場全景

(テレコムセンター駅側から西面を撮影したものです)
(H22.12.21撮影)

図2は新本部の東面を撮影したのですが、図中茶色に見える木製ルーバーは多摩産の杉の間伐材を外装材として使用したもので、斬新で特徴的な造りになっています。



図2 新本部建設現場背面

(東面を撮影したものです)
(H23.2.4撮影)

新本部における支援事業

4月号から全12回のシリーズの中で新本部の主な支援事業についてご紹介してきました。

- 中小企業の基盤技術を支える、主なものに、高電圧試験、LED照明評価、音響試験、X線非破壊試験があります。
- 製品化・事業化の支援として高度分析開発セクター、システムデザインセクター、実証試験セクターの3セクターを新たに整備します。
- 製品開発支援ラボでは、利用者の利便性を優先し24時間ラボとして、現状より大幅に増設し18室を設置します。
- 産業交流の連携促進として東京イノベーションハブを発展させます。
- 4つの新重点技術分野としてメカトロニクス、バイオ応用、EMC・半導体、環境・省エネルギーの産業育成支援に注力します。



図3 情熱の赤いかけ橋

最後に、図3は最上階5階中央付近に位置する光庭の通路上にあるものです。都産技研カラーの一つである情熱の赤に塗装されています。通路周りはウッドデッキと植栽があり、誰もがくつろげる交流の場となります。

新拠点新本部に関してご質問のある方は、下記にご連絡下さい。

経営企画部 新拠点準備室 <西が丘本部>

山本 克美 TEL 03-3909-2176

E-mail : yamamoto.katsumi@iri-tokyo.jp